※令和３年度以前入学生用

学校番号	３０１９

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「改訂版日本史Ａ」　（山川出版社）						
副教材等	写真資料館　日本史のアーカイブ（2023 年度用）（東京法令出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史上の人物や出来事をきっかけに、歴史に興味を持つ。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を学び、これからの社会の在り方を考える。
・世界各国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。
・歴史を過去の出来事として切り離さず、今との繋がりを感じる感性をもつ。
・重要語句を覚えることだけが学習ではありません。重要語句を覚え、内容を理解してください。

2　学習の到達目標

・近代以降の日本の歴史の学習を通して、日本の近代化の成果や課題を自分なりにまとめられるようになる。
・第二次世界大戦後の現代史の歩みを通して、民主国家として生まれ変わった日本のあり方を理解し、民主主義社会に生きる公民的資質を獲得する

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の近現代史の流れを当時の世界情勢と関連付けながら関心を持って意欲的に探究する。	日本の近現代の歩みを通して生まれた様々な問題を歴史的な視点から考える。また諸問題に対し公正に判断し表現している。	日本の近現代の歴史に関する諸資料を利用し、有用な情報を選択して、読み取る。	日本の近現代の歴史についての基本的な事柄を身に付けている。
評価方法	プリント	定期考査 プリント	定期考査 プリント	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	・近世社会の動揺と近現代への胎動 ・開国と明治維新 ・立憲国家の成立	・幕藩体制の動揺と政治改革 ・明治維新 ・殖産興業と文明開化 ・・立憲制の成立	○	○	○	○	a:歴史への関心を高めようとしている。 b:幕末から立憲制の成立までの時期について多面的に考え、過程や結果を適切に表現している。 c:資料を利用し、情報をまとめている。 d:幕末から立憲制の成立までを理解し、その知識を身につけている。	定期考査 プリント
二学期	・第一次世界大戦と日本 ・昭和の恐慌と満州事変 ・第二次世界大戦と日本	・ワシントン体制 ・軍部の台頭 ・日中戦争	○	○	○	○	a:明治期から昭和期の歴史の様子について関心を高めようとしている。 b:世界から孤立していく日本の様子などから多面的に考え、過程や結果を適切に表現している。 c:資料を利用し、情報をまとめている。 d:第一次世界大戦から第二次世界大戦までの世界と日本の関わりを理解し、その知識を身につけている。	定期考査 プリント
三学期	・占領下の日本 ・経済繁栄と保守長期政権 ・現代の世界と日本	・占領と改革 ・55 年体制 ・冷戦の終結と日本	○	○	○	○	a:第二次世界大戦の原因と影響、戦後の新たな体制などに対する関心を高めようとしている。 b:大戦後の社会体制や経済発展などについて多面的に考え、過程や結果を適切に表現している。 c:資料を利用し、情報をまとめている。 d:第二次世界大戦後から現代の日本について理解し、その知識を身につけている。	定期考査 プリント

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。